

# 算命学中庸

## 【初年】 64 回目

64 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺の心得】（2）

【初年】 64 回目 【天中殺の心得（2）】 01

### □ 天中殺の心得（2）

- ① 夫婦の天中殺
- ② 天中殺の結婚
- ③ 夫か妻の天中殺のとき ⇒ 夫と妻の<sup>こころもち</sup>心用い
- ④ 夫婦が同一中殺
- ⑤ 天中殺の浮気（不倫）
- ⑥ 別れた配偶者の天中殺と影響

私たちの生活に必須の太陽は、2000 億個も集まって構成されている「銀河系」のなかの 1 つの小さな星です。

銀河系は円盤のような形状をして、中心部は少し膨らんでいます。

銀河系の端から端まで横切るのに、光の速度（光年）でも 10 万年以上もかかるといわれています。

太陽系は銀河系の円盤部の端から、2 万光年（中心から 3 万光年）の場所にあるようです。

私たちが住む地球は、太陽系（太陽系は太陽を中心に、9 つの惑星と小天体の仲間からなる総称）の一員です。

現在のところ、生命の存在が確認されている惑星は地球だけです。

地球上に生命ができるには「気」が作用していると算命学は考えています。

「気」には、宇宙の気「天気」と地球の気「地気」があり、その気を干支で表したのが「六十干支」になります。

宇宙の気「天氣」五行・十干  
地球の気「地氣」十二支 } 六十干支

自然界を分類して「六十干支」を考えだしたのです。

「天氣」は五行・十干になり、「地氣」は十二支になり、その最小公倍数が60になります。

「六十干支」を基にして、60年ごとに、60ヶ月ごとに、60日ごとに循環する<sup>こよみ</sup>暦をつくりました。それゆえに、人間個人が生まれてくる生年月日が、1日違えば、干支も異なり、人体図も違います。

地球上の<sup>ばんしょう</sup>万象のなかで、五行を備えているのは人間だけです。

それゆえに、算命学の考え方は人間以外には原則としてつかえないのです。

馬や犬や猫など、ほかの動物は、五行を備えていないからです。

「十干」と（十二支）の組み合わせで「六十干支」ができるわけですから、どうしても、**2**という数字の違いができます。

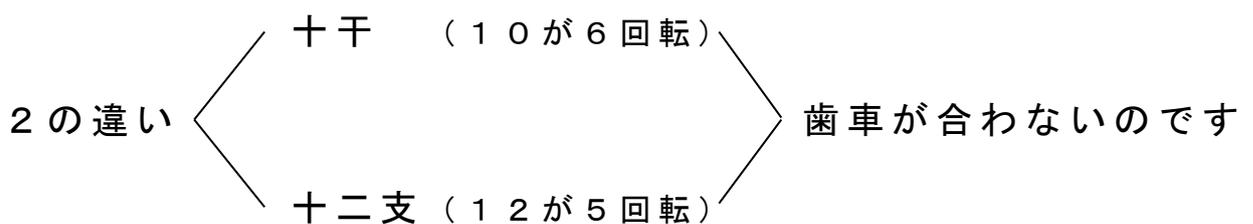
「陽神」  $\boxed{10}$  が 6  $\Rightarrow 10 \times \boxed{6} = 60$

「陰神」  $\boxed{12}$  が 5  $\Rightarrow 12 \times \boxed{5} = 60$

$\boxed{10}$  と  $\boxed{12}$  そして  $\boxed{5}$  と  $\boxed{6}$  の合わない部分に妥協点を見いだしたわけです。しかし“歪み”が生じました。その歪み・妥協点を天中殺と名称したのです。

参照⇒【初年】 63 回目【天中殺の心得（1）】 07

「陽神」は「天気」です。「陰神」は「地気」です。



歯車が噛み合わなくても、人間が生まれて生活しています。

その合わない部分が、自分の毎日の生活に、影響をおよぼして来ると、算命学は考えているのです。

その齟齬そごの部分が「天中殺」です。

〔たとえば〕 日干支が「甲午」の人は、辰巳天中殺です。

日干支が「辛丑」の人も、辰巳天中殺です。

甲 ○ ○	辛 ○ ○
辰 午 ○ ○	辰 丑 ○ ○
巳	巳

辰巳天中殺というグループの人は、「甲午」から始まって「癸卯」までのあいだが、すべて辰巳天中殺になります。

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子 丑	寅 卯	辰 巳	午 未	申 酉	戌 亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

天中殺が誕生するには、けっして一つの干支だけでは誕生しません。必ずグループ単位です。

必ず、「甲木」で始まって「癸水」で終わります。

「甲午」から「癸卯」までの干支グループです。  
10と12の組み合わせですから、十干のグループ  
に対しての天中殺です。  
当然、十干が6回転するわけですから、天中殺範囲  
は（6×2）で12あるわけです。

☞ 天中殺は単独ではなて、グループで生まれて来ます。

☞ グループということを、<sup>たと</sup>例えていえば……。



甲午～癸卯のグループは、おなじ船  
に乗っているようなものです。

おなじ船に乗って、生涯（生まれてから死ぬまで）に  
渡る旅を続けていくわけです。

天中殺がグループで生まれるものですから、天中殺  
はグループ内で影響します。

天中殺というのは、自分の天中殺がグループに影響  
するし、相手の天中殺も自分に影響します。

グループという意味でいえば、1番自分にとって、必要で大切なグループは家族になります。

ということは……家族のなかの一人・誰かの天中殺がその家族の人達に影響を及ぼします。

それは、天中殺がグループで生まれたからです。

グループに影響しますから、夫の天中殺は、必ず、妻に影響し、妻の天中殺は必ず夫に影響します。

子供の天中殺は、親に影響し、親の天中殺は子供に影響します。

親から子、子から孫へと、全ての家族に影響を及ぼすわけです。

## ① 夫婦の天中殺

〔たとえば〕 ㊤ というご夫婦が、夫の天中殺で結婚しました。その妻が「夫が天中殺の影響を受けて駄目なんですよ」といって、自分には関係ないと思っても、そうはいかないのです。

特に夫婦は、家庭をつくるという共同作業がありますから、相手だけが悪いというわけにはいきません。夫が天中殺に入っていたら、必ず妻も影響を受けます。妻が天中殺に入れば、夫にも影響します。もし、どちらかの天中殺のときに、結婚したとすれば、一番大きな問題を残します。

天中殺で結婚していなくても、ご夫婦のどちらかの天中殺がまわってくれば、当然、夫婦の両方に影響します。

通常は、夫の天中殺と妻の天中殺がずれているのがよいのです。

つまり、夫が戌亥天中殺であれば、妻が午未天中殺とかで、おなじ天中殺でないほうがよいのです。

ねん  
年の天中殺（年天中殺）は12年間のなかで、2年  
間が天中殺範囲になりますから、ご夫婦2人の場合  
だと、天中殺が異なれば、12年間のうち4年間は  
夫婦のあいだに天中殺が影響することになります。

そうしますと、夫も妻もおなじ天中殺〔同一中殺〕<sup>どういつちゅうさつ</sup>  
であれば、12年間のうちで2年間だけで済むと考  
えてしまいますが、天中殺の中身が違います。

夫婦がおなじ天中殺範囲ということは、同一期間に  
中殺がまわって来ます。

2年得したと想っても、重なる分だけ禍いがでます。

〔たとえば〕夫婦の一方が風邪を引いても、一方が  
罹<sup>りかん</sup>患していなければ、看病もできますが、2人とも  
風邪を引いたら、助け合うことができません。

そのように考えるとよいでしょう。

「戌亥天中殺」⇒ 甲子 ～ 癸酉 までのグループ

「申酉天中殺」⇒ 甲戌 ～ 癸未 までのグループ

「午未天中殺」⇒ 甲申 ～ 癸巳 までのグループ

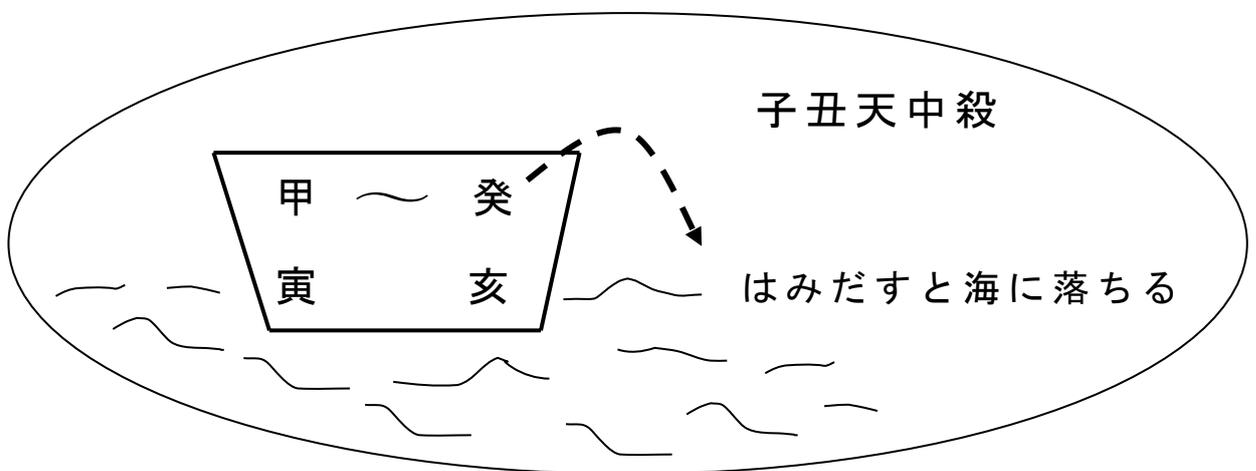
「辰巳天中殺」⇒ 甲午 ～ 癸卯 までのグループ

「寅卯天中殺」⇒ 甲辰 ～ 癸丑 までのグループ

「子丑天中殺」⇒ 甲寅 ～ 癸亥 までのグループ

前頁のように、6つの天中殺グループがあります。それぞれの中殺範囲が、別々の舟に乗って、人生の旅を続けているわけです。 🔍 天中殺表で確認ください。

〔たとえば〕 **甲寅 51** ~ **癸亥 60** の人は、子丑天中殺です。グループ全員が天中殺に囲まれています。



この船は「子丑天中殺」に囲まれています。子丑天中殺を海にたとえると、「甲寅」～「癸亥」のグループから、はみ出してしまうと、海に落ちてしまいます。

そうしますと、天中殺で物事を起こすということは、「このグループからはみ出した別行動をする」と、いうことなのです。

〔天中殺で結婚する〕〔天中殺で家を建てる〕〔天中殺で子供を生む〕それは“はみ出す”ことを意味します。

※ ほかにさまざまなありますよ。

<sup>あいしょう</sup>相性ということでは……おなじ船に乗っている者同士ほうが「相性が良くて」、違う船に乗っている者とでは「相性が悪い」のではないかと考えてしまうわけです。

確かにおなじグループという意味では、相性が良いです。しかし、それが「本当に良いか、悪いか」という話は別になります。

〔たとえば〕夫婦 2 人だけが、この世にいるのなら相性が良いといえます。

しかし、夫婦 2 人で、世の中を渡っているのではないのです。

子供もいるでしょうし、両親もいます。

生活をするには、ほかの人達とも、接しなければ生きていけないのです。

ほかとの関わりのなかで、人間は生かされています。そして、人間はほかの人達にも、影響を与えている存在なわけです。

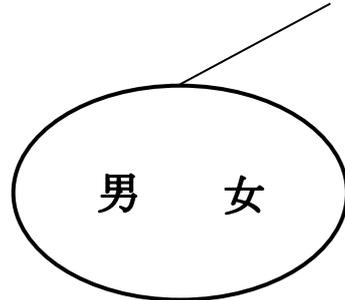
そのように考えていただきたいのです。

## ② 天中殺の結婚

結婚したとき、男女のどちらか一方だけが天中殺であっても、相手も天中殺の結婚になります。

つまり、夫の天中殺で結婚すれば、妻になる女性も天中殺で結婚したことになります。

∞ ここでは天中殺に関係なく考えてみましょう。  
男性と女性が結婚して夫と妻になるわけです。  
そうすると“結婚という気”で包まれます。



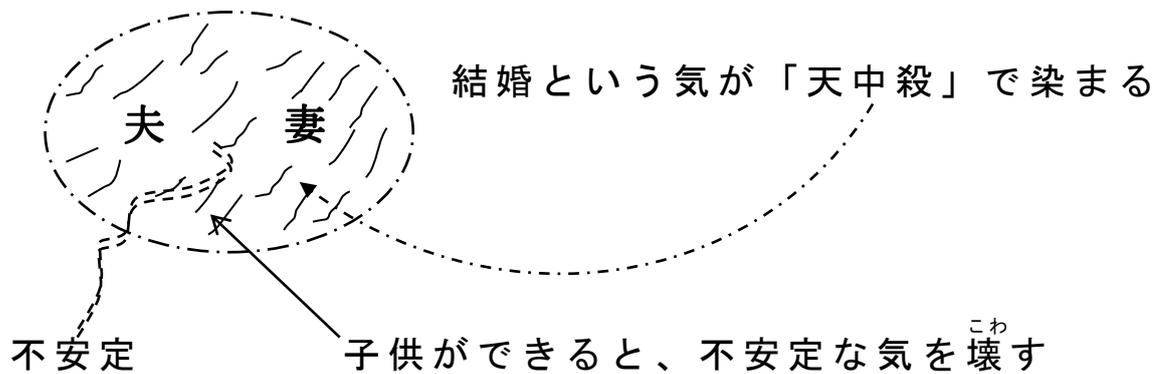
結婚という気で包まれるということは、結婚という気で保護されることにもなります。

〔彼女は自分の妻です〕〔彼は自分の夫です〕と、人様に紹介します。

これは「自分たちは結婚という気で保護されている」ということであり、社会の認知度も違います。

ところが、夫となる男性の天中殺で結婚しますと、『結婚の気』が天中殺で染まります。

妻のほうか「私は天中殺ではないわ」といっても、夫の天中殺の気で包まれますから影響します。



離婚すれば「結婚の気」は消えてなくなります。

天中殺で結婚すると、天中殺の気で包まれますから、結婚の気が非常に不安定になります。

男性・女性……どちらの天中殺で結婚しても、気が不安定・不完全になるので、壊れやすいのです。

結婚を保護している気が弱いので、チョットとした刺激に反応しますから、壊れないように保つためには、どちらにとっても、何倍もの苦勞が必要になります。夫の天中殺で結婚したとしたら、妻のほうも大変です。妻の天中殺で結婚したとすれば、夫のほうも大変です。そして、子供ができると不安定な気



✽ 勝 新太郎 1931(s6)-11-29 1997-6-21 [65 歳没]

午 未	戊	己	辛		調舒星	天堂星	8 戊戌
	子	亥	未	司祿星	祿存星	石門星	18 丁酉
		甲	丁	天報星	石門星	天馳星	28 丙申
			乙				38 乙未
		壬	己				48 甲午
							58 癸巳
						68 壬申	

癸  
妻

✽ 中村 玉緒 1939(s14)-7-12

寅 卯	庚	辛	己		玉堂星	天報星	9 壬申
	戌	未	卯	石門星	牽牛星	司祿星	19 癸酉
		辛	丁		天堂星	石門星	29 甲戌
		丁	乙				39 乙亥
		戊	己	乙			49 丙子
				夫			59 丁丑
						69 戊寅	
						79 己卯	
						89 庚辰	

勝新太郎 ⇒ 結婚 1962(s37)「壬寅」-3-7〔30 歳〕

1997(h9)「丁丑」-6-21〔65 歳没〕

中村玉緒 ⇒ 結婚 1962(s37)「壬寅」-3-7〔22 歳〕

この二人は 1962(s37)「壬寅」の年に結婚したわけですが、この<sup>とし</sup>年は妻の天中殺です。

勝新太郎は、多額の借金を抱えて破産したり、麻薬で逮捕されたり、さまざまな問題を起こした人です。

中村玉緒さんは、夫が他界した<sup>あと</sup>後、生き生きと仕事をしていたようです。

中村玉緒さんの「生年中殺」のなかに、夫が入っていますから、彼女は夫中殺の宿命です。

結婚は人生最大のお祝い事です。

自分がどの天中殺の人と結婚するかで、自分の人生は変わりますし、結婚するときも、相手の天中殺によって、寿命が<sup>ちぢ</sup>縮んだり、<sup>の</sup>延びたりもします。

＊ 郷ひろみ 1955(s30)-10-18

	壬	丙	乙		調舒星	天印星	4 戊戌
寅	子	戌	未	石門星	司祿星	調舒星	14 丁酉
卯		辛	丁	天将星	祿存星	天南星	24 丙申
		丁	乙				34 乙未
	癸	戊	己				44 甲午
							54 癸巳
							64 壬申
							74 辛未

＊ 二谷友理恵 1964(s39)-11-16

	己	乙	甲		牽牛星	天堂星	4 甲戌
戌	巳	亥	辰	調舒星	牽牛星	祿存星	14 癸亥
亥	戊	甲	乙	天将星	車騎星	天報星	24 壬申
	庚		癸				34 辛未
	丙	壬	戊				44 庚午
							54 己巳
							64 戊辰
							74 丁卯

⇒ 1987「丁卯」-6-12 ⇒ 郷ひろみと二谷友理恵の結婚披露宴は〔現・新高輪プリンスホテル〕で催されました。郷ひろみは寅卯天中殺ですから、天中殺の結婚です。郷ひろみ 1998「戊寅」-4月に、自分の天中殺で離婚。

郷ひろみの天中殺で結婚して、本人の天中殺で離婚しています。女の子が2人生まれています。天中殺の結婚で、もともと不安定な気で包まれている結婚の気が、子供が生まれるたびに“ひび割れ”を起こして壊れてゆき、つぎの天中殺までがまわる約11年間で破局になりました。

### ⇒ 天中殺で結婚すると破局になるのか？

天中殺での結婚は、夫か妻のどちらかが、一方的に我慢しなければならないのです。

郷ひろみが我慢するか、二谷友理恵が我慢するかのどちらかです。お互いの自己主張が強ければ、強いほど結婚は壊れます。

簡単にいえば、この2人は陰占でも世界が違います。

二谷友理恵の陽占は〔牽牛星〕と〔車騎星〕が縦に並んでいます。そして自分と夫の場所〔第一命星〕は七殺です。

お互いに我慢はできませんよね。

③ 夫か妻の天中殺のとき ⇒ 夫と妻の心用い<sup>こころもち</sup>

〔たとえば〕 2022 年「壬寅」と、2023 年「癸卯」は寅卯天中殺の年ですから、寅卯天中殺をもつ夫、あるいは、寅卯天中殺をもつ妻が知っておくべきことです。 参考・心用い〔心づかい。心がけ。気のくぼり方〕

夫と妻は対等ですが、どちらかが主導権を握っています。主導権を握っている人が、天中殺に入ると、相手に影響を与える度合いが大きいのです。

☞ 夫が一家の主導権を握っている場合は、夫が天中殺に入ると、夫の天中殺が一家に影響を及ぼします。

そのときは、妻は我慢をしなければなりません。

☞ 妻が一家の主導権を握っている場合は、妻が天中殺に入ったら、夫は我慢しなければいけないのです。

どうしてなのかといえは……天中殺に入っている人というのは、自分自身の気が不安定なので、第三者の忠告、相手の忠告を聞かないことが多いのです。

また、天中殺中に相手に忠告したとしても、天中殺に入っている人には、正しく理解されないのです。

④ 夫婦が同一中殺<sup>どういつちゅうさつ</sup>

① おなじ天中殺（同一中殺）をもつ二人が、自分たちの天中殺で結婚した。

② 二人は、自分たちの天中殺で結婚していないけれど、おなじ天中殺を（同一中殺）もつ場合。

〔たとえば〕夫婦ともに子丑天中殺とかです。

そうしますと、二通りの考え方をしないといけません。

天中殺に焦点を絞って話をします。

同一天中殺は“おなじ船に乗っている”という意味では、相性は良い（仲が良いはず）わけです。

相性が良いといっても、いつまでも相性が良いということにはならないのです。

同一中殺は天中殺の周期的な動きが同一（おなじ）なので、（上がったたり、下がったりする律動があるとすれば、二人で上がり、二人で下がります）その意味で相性が良いとなりますが……ここに問題があります。

ご夫婦が一生という長い人生の旅を続けるときに、夫の運勢が下がったときに、一緒に妻も下がったら、

その夫婦のあいだで、お互いを支えるものが無くなるという考え方をするのであります。

結婚からの長い人生行路における夫婦間において、お互いを支え合うものがない状態です。

人生の<sup>みちのり</sup>道程は、良いときばかりではないわけです。夫の運が悪いときに、妻の運勢も悪いということは、良くないことだと考えています。

どちらかといえば、〔夫の運勢が悪いときに、妻の運勢は悪くない〕その反対に〔妻の運勢が悪いときに夫の運が悪くない〕ということであれば、お互いに支え合うことができると考えています。

それゆえに、仲が良い、相性が良い、ということと、夫婦として、人生行路を順調に保っていけるのか、いけないのか、それは別の話になるのです。

夫が病気になって、妻も病気になったとしたらどうでしょう。

一家が成り立たないことになります。

その意味では、同一中殺（おなじ天中殺）の夫婦は、結婚生活を維持していくためには良くないのです。

まず、そのことが前提にあります。

それに加えて……自分たちの天中殺が寅卯天中殺であれば、（寅）あるいは（卯）の年<sup>とし</sup>に結婚することは、〔つまり、寅卯天中殺のときに結婚することは〕結婚の気を天中殺という不完全を、二人が共同してつくることになります。（不完全なものにします）

〔結婚はまとまるのが本意・完全な姿です〕

〔離婚は壊すという不本意・不完全な姿です〕

物事を不自然・不完全な姿にする天中殺で、結婚するのは、離婚するために結婚するようなものです。

天中殺というのは、自分が天中殺で困ったときに、自分の天中殺の禍を、相手に分け与えることができます。そこに特徴があるのです。それゆえに、夫婦の一方が天中殺になれば、相手もその影響をうけるわけです。

そうしますと、同一中殺、つまり寅卯天中殺というおなじ天中殺をもっている二人が、自分たちの寅卯天中殺のときに結婚したとなると、初めから離婚するために結婚したようなものです。



⇒ 小柳ルミ子と大澄賢也は「同一天中殺」です。

1988「戊辰」年末に意気投合、1989「戊辰」1月6日入籍。

小柳ルミ子〔36歳〕大澄賢也〔23歳〕年齢差〔13歳〕

男女関係も結婚も小柳ルミ子の大運天中殺「癸卯」です。

こういう状態で結婚を維持していくのは難しいのです。

（2人の間に子供はいません）

仲が良かったとのことですが、実態はわかりません。

夫のプライドが高くて、自己主張が強く、妻の主導権に我慢できず、離婚になったと想われます。

同一天中殺の夫婦は、仲の良いときはすごく仲が良いのですが、おなじ船に乗っていますから、ちょっと仲がこじれると、顔も見たくなくなります。

体に触れてもらいたくもないのです。

同一天中殺の夫婦は、その度合いが大きいのです。

そうなってしまうと、夫婦関係を維持できません。

この夫婦の場合、大澄賢也は、妻のバックダンサーで主導権は妻にあり、生活も仕事も一緒です。

大澄賢也は自己中ですから、いつまでも妻のいいなりではられないのです。

## ⑤ 天中殺の浮気（不倫）

天中殺に入ると、どうしても自分の意志とは関係なく情緒不安定になります。

自分の情緒不安定を相手（妻とか夫）にぶつけます。本人は情緒不安定になっている自覚をもてません。相手のほうが変わったように見えるし、想えます。こんなはずでは……と考えるようになります。そうなると、ほかの異性に目を向けます。

天中殺になった本人から見て、自分の妻とは異なるタイプ選んだつもりであっても、周囲から見ると、おなじような人を選んでいるのです。

そこが失敗や不幸につながります。

相手に子供が生まれてしまうと、行き詰まって、身動きがとれない状況になります。

夫の浮気の常習犯 ⇒ 松方弘樹

妻の浮気の常習犯 ⇒ 松田聖子

世の中には、男と女しか存在しませんので、結婚するのも1対1の結婚ですから、生涯、相手を変えな

いで生活するというのはなかなか難しいわけです。自分の気持ちを自制できる人でなければ難しいですね。

夫が浮気するというのは、浮気される妻がいるわけです。

浮気するほうも、浮気されるほうも、その価値観はおなじだと考えています。

## ⑥ 別れた配偶者の天中殺と影響

「別れた相手の天中殺の影響を受けることはない」  
これは原則です。

しかし、子供がいれば影響を受けます。

子供にとっては、自分の両親が別れようと、別れまいと、父は父であり、母は母ですから、子供を介して（通して）影響があります。

子供を介さないときには関係は無いのです。

〔たとえば〕 6回結婚して、一人ずつ子供ができていたら大変です。

その場合は、あきらめるしかないのです。

夫婦は別れれば他人です。

（もともと他人の繋がりであったわけですから）

離婚すれば、結婚の気は壊れて、霧散<sup>むさん</sup>しますから、子供がいなければ関係ありません。

参考・霧散〔霧が晴れて散るように、あとかたもなく消えること〕

【初年】 64回目【天中殺の心得（2）】 **終わります**

つぎの授業 ⇒ 【初年】 65回目【天中殺の心得（3）】 です。